



第14期 R E F 第5回幹事会開催

第14期 R E F 第5回幹事会が、平成6年5月13日(金)午後6時30分より三谷ビル204号室(R E F会議室)にて開催されました。当日の議題は、①分科会活動報告(各担当幹事)、②談話会、理論研報告(各担当幹事)、③海外研修計画(加藤式男氏)、④R E F第14号の発行について(中村毅氏)、⑤R E F15周年記念企画委員会について(橋本栄治氏)、⑥R E F第14期分科会報告会、第15回総会の実施計画について(橋本栄治氏)、⑦「R E F顧問 今野修平先生を囲んでの話し合い」について(前川政人氏)、⑧その他会員の異動等雑件、ありました。以下にその内容をまとめます。

次回の第6回幹事会は7月1日(金)の予定です。

②談話会報告

第38回談話会開催される

第38回談話会が去る3月25日職員会館にて開催されました。昨年11月に福井県建設技術調査団として中国浙江省を視察された杉森正義氏、児玉忠氏をゲストに迎えて、建設現場からファッショショニーにいたるまで160枚の豊富なスライドを交えて上海、温州、杭州、寧波が順次紹介されました。

人力中心の土木工事や竹足場の建築工事からは、建設技術の遅れを感じましたが、雑踏の中の若者の多さや行き交う自転車の流れから発展途上にある活力を感じさせられました。

質疑応答の中では、中国からの留学生の陳怡平君、李偉国君による補足説明もあり、議論を深めることができました。

第39回談話会のお知らせ

テーマ	韓国における環東海圏への取り組み
日 時	平成6年6月21日(火) 18:30~20:30
場 所	職員会館201号室 TEL 0776-26-0111
ゲスト	川上 洋司氏(福井大学工学部助教授)

③海外研修準備状況報告

今回はアンケート調査の結果、研修先としてマニラに決定し、フィリピンに山田先生が滞在中とのことであって手作りの海外研修を目指して準備を進めてきました。6月上旬現在13名の参加者が確定し、日程についても5月26日に山田先生が一時帰国された機会を得て調整した結果、有意義で楽しい企画になりつつあります。また理論研において、フィリピンの勉強会も第1回目が5月26日に行われるなど活発に活動を開始しています。なお、研修の概略日程は以下のようです。

8月20日(土)	大阪発…マニラ着…ニッコウマニラガーデン泊(滞在中)
21日(日)	市内見学、各グループ研修
22日(月)	JICA…フィリピン大学交通研究センター訪問…各グループ研修
23日(火)	マニラ発…大阪着

④R E F第14号の発行について

発行日は、平成6年7月9日(土)です。内容は巻頭言、特別投稿、分科会研究報告、地域間交流報告、R E F活動報告などとなっています。なお、各分科会の研究報告等の提出期限は、版下で提出されるものは、6月24日の第2回編集委員会(三谷ビル204号室18:30~)にて担当者が提出願います。また添書が必要なものに関しては、6月15日~24日までに川本(福井大)までお送り下さい。

⑤ R E F 15周年記念企画委員会について

ここでは記念行事実行計画案が議論されました。テーマの案として(1)地域づくり・まちづくり団体交流会（秋田、山梨、岐阜、静岡、滋賀などのまちづくり研究会との懇談会）、(2)茨城県鹿島町におけるJリーグ人気とまちづくり（スポーツによるまちづくり）、(3)まちづくり全国大会 in Fukui（第46回都市計画全国大会の開催(10月20,21日)にあわせて行つたらどうか）、(4)女性によるまちづくり実験（女性が市長になつたらこんなすばらしいまちづくりが…）、など以上4つ挙げられました。中でも(3)は面白いものにできるのではという意見が多数を占めましたが、最終的な絞り込みはこれからです。

⑥ R E F 第14期分科会報告会、第15回総会の実施計画について

平成6年7月9日（土）午後より行われます。内容は以下の通りです。

《第14期分科会報告会》 (13:30~)	《第15回総会》 (15:40~)	〈休憩〉	《懇親会》 (17:00~)
(1)開 会	(1)開 会		(1)開会挨拶
(2)幹事長挨拶	(2)会長挨拶		(2)乾 杯
(3)分科会報告	(3)顧問挨拶		(3)歓 談
(4)講 評	(4)会友祝辞		(4)閉会の辞
(5)閉 会	(5)新入会員紹介及び会員等異動報告 (6)第14期活動報告 (7)議長選出 (8)議決事項 (9)第15期活動方針 (10)閉会の辞		

⑦ R E F 顧問 今野修平先生を囲んでの話し合いについて

4月14日午後6時から県民会館において大阪産業大学教授でR E F 顧問の今野修平先生を迎え、討論会が開催されました。出席者は今野先生のほか富田顧問、本多会長、前川幹事長ら10名でした。

「貧困自治体からの地方分権論」「裕福自治体からの地方分権論」「霞が関での主導権獲得からの地方分権論」「財界等民間からの地方分権論」「幕藩体制の評価」「内務省体制の中の地方行政」「戦後体制の中の地方分権」「成熟経済体制の中の地方分権の必要性」「弱い立方機能の中での問題点」「官僚主導制の中での問題点」「資本の原動力と政策の原動力をどのように考えるか」「利権化の壁」「小さな政府論との関係」「社会資本整備からみた国の役割、地方の役割」「地方主権論と調整権限のあり方」「地方分権化の具体的なあり方を求めて」と、今野先生の地方分権に対する考え方が語られました。

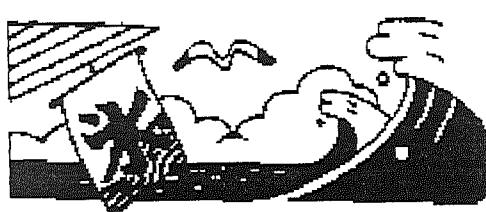
討論会の内容についてはR E F 14号に掲載される予定でありますので御期待ください。

⑧ 会員の異動等

平成6年5月13日（金）の幹事会にて、村上みち子氏（No.165）の退会が受理されました。

R E F 第14期分科会報告会・第15期総会の日程決定のお知らせ

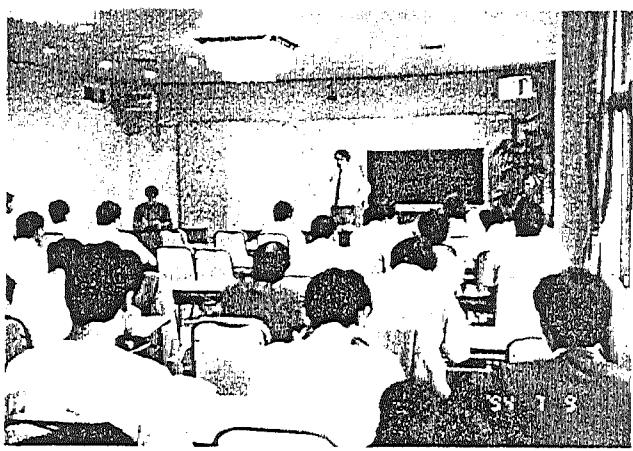
日 時 平成6年7月9日（土）福井県職員会館にて
と 分科会報告会・総会 13:30 ~ (101号室)
場 所 懇親会 17:00 ~ (301号室)



第十五回総会

第十五期 役員・予算案議決!

新幹事長に橋本氏、十五周年記念行事に五万円――



【総会で挨拶する本多会長】

◆REF規約改正◆

第3章 会員

第5条 本会の会員および会友は下記の会費を納入するものとする。

- (1) 正会員 年額 12,000円
- (2) 学生会員 " 6,000円
- (3) 会友 " 6,000円

→ 第5条 本会の会員及び会友は下記の会費を納入するものとする。
ただし、外国国籍の会員の会費は免除することができる。

改正後 (2) 学生会員 6,000円→3,000円とする

REF第十五回総会が七月九日福井県職員会館で行われ、会員約六十名の出席を得て、新役員・新予算・規定改正などの議決のほか新役員による本期の活動方針が表明された。総会では、本多会長からこれまでのREF活動の経過や今後も地域交流や産官学による共同研究を進めたい旨のあいさつがあり、横木氏の会友祝辞、前川幹事長による第十四期活動報告の後、三輪氏を議長に選出し議事にうつった。主な議決事項としては、新任十一名を含む新役員案

が原案どおり議決、総額百九十万円余りの予算案についても原案どおり議決された。規約改正については、外国国籍会員の会費の扱いを一部修正のうえ議決となりた。また、本期は第十五周年記念行事が予定されており、橋本実行委員長からテーク、予算案等についての説明があり、その内容(裏面詳細)で今後も準備を進めることが確認された。引き続き、丹原氏の乾杯で懇親会が幕を開け、稻葉氏の司会で十数名がスピーチを行うなど、あつと/or間に親睦の時間が過ぎた。

議決事項

◆第十五期 役員(敬称略)◆
(任期 平成六年七月～平成七年七月)

会長	本多 義明	福井大学工学部
副会長	児玉 忠	県都市計画課
幹事長	橋本 栄治	福井大学工学部
副幹事長	川上 洋司	県都市計画課
幹事	野村 吉範	福井大学工学部
(総務)	小嶋 直人	県河川課
(広報)	長谷川 義則	県大野土木事務所
(談話会)	三田村 佳紀	県駅周辺整備事務所
(論文・理論研)	式男 隆夫	県道路建設課
(研修会)	稻葉 肇	県福井土木事務所
各分科会幹事	加藤 式男	帝国コンサルタント

幹事	幹事
(総務支援)	(財務支援)
(広報支援)	(財務)
(談話会支援)	(談話会)
各分科会幹事	(論文・理論研)
幹事会幹事	(研修会)
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肇
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肇
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肇
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肇
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肇
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肇
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肇
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肇
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肇
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範
幹事会幹事	小嶋直人
幹事会幹事	長谷川義則
幹事会幹事	三田村佳紀
幹事会幹事	式男 隆夫
幹事会幹事	稻葉 肪
幹事会幹事	加藤 式男
幹事会幹事	野村 吉範

橋本新幹事長、決意表明！

分科会活動の再生に向けて

さきの総会で、前川幹事長の後任に橋本氏（県都市計画課）が選出された。橋本幹事長は、昭和五十九年にREF入会以来、地象分科会長、総務担当幹事等を歴任。これまで、REFの裏方をしっかりと支えてきた人である。幹事長といえど、ある意味で「REFの顔」。第十五期活動に向けての決意表明を取材した。



《橋本幹事長談》

REFは「地域の計画は地域の手で」をスローガンに、これまで分科会活動を中心に行なってきました。しかし、特に最近の分科会活動は「原稿を書くこと」「報告書を作ること」それ自体が活動の目的になつてゐるよう見受けられる。本来の、「地域の計画づくり」に向けた、「議論する」

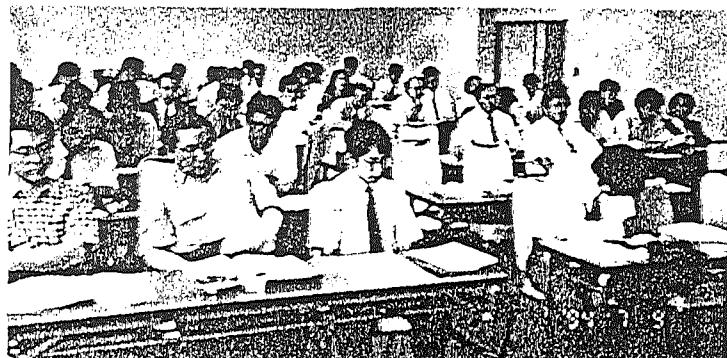
「意見交換をする」といった活動の基本が忘れ去られているようだ。どんな活動も年月を経ると新鮮味が失われているように、わがREF活動も見直しの時期にきてるのかも知れない。現在7分科会がそれ共通のテーマを持つて、例えば「交通と土地利用」「土地利用と緑」といった組み合わせで共同研究を行うのも、分科会間の交流の促進につながり新しい分科会活動の取り組みの一つとしてはおもしろいかも知れ

ない。地域づくりの原点が「住民自らのヤル気」であるよう、REF第十五期の活動にあたっては、「会員自らのヤル気」を今度奮起させ、これがREF全体の再生、再活性化に結びつくよう努力していきたいと考えている。

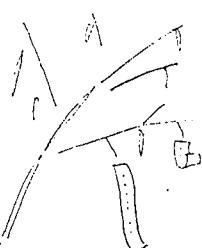
最後に、第十五期活動の大規模なイベントとしてREF結成十五周年記念行事を

第15周年記念事業に向けた第14期の研究成果報告される

総会に先立ち第十四期分科会報告会が、藤田氏の司会で行われた。発表時間十分、コメント三分の時間割で七分科会の研究成果が報告された。発表内容は今期で一応の結論を見た分科会から、新しいテーマに向けて第一歩を踏み出した分科会まで様々であったが、各発表者が報告書に基づいて、もともとTEF分科会活動も見直しの時期にきてるのかも知れない。現在7分科会がそれ共通のテーマを持つて、例えば「交通と土地利用」「土地利用と緑」といった組み合わせで共同研究を行なうのも、分科会間の交流の促進につながり新しい分科会活動の取り組みの一つとしてはおもしろいかも知れ



【発表に耳を傾けるフロア】



入会・退会のお知らせ

1. 総数

	H6.2	H6.7	増減
会員	94	101	+ 7
学生会員	13	19	+ 6
会友	40	41	+ 1
計	147	161	+ 14

2. 入会

1) 正会員

- 池田 千鳥 (No.143) 橋本 拓己 (No.165)
- 白崎 健一 (No.196) 林 逸夫 (No.197)
- 八木 健一 (No.198) 黒川 満代 (No.199)
- 吉村由美子 (No.200) 原 千鶴枝 (No.201)
- 2) 学生会員
- 本 宏樹 (No.501) 山田 泰之 (No.502)
- 河野 芳輝 (No.508) 酒井 理恵 (No.509)
- 佐々木義明 (No.514) 畠原桂一郎 (No.515)
- 平岩 直也 (No.516) 三上 弘城 (No.517)
- 宮下 孝 (No.518) 吉野 敦子 (No.519)

3. 退会

1) 正会員

- 村上みち子 (No.165)

2) 学生会員

- 酒井 香 (No.508)

3) 会友

- 関野 優 (No.324)
- 小林 郁美 (No.342)

4. 移動

1) 学生会員→会友

- 横木 刚 (No.501→No.304)
- 英 清治 (No.502→No.324)
- 尾関 義彰 (No.509→No.328)

第15周年記念事業に向けた第14期の研究成果報告される

テーマは

「まちづくり全国大会 in Fukui」

総会において、REF結成15周年事業についての実行計画案が発表された。計画案は以下のとおりである。

1) 趣旨

REFは昭和54年11月の結成以来、15年の歳月が経過しようとしている。

結成10周年には、記念講演会や、"ほろ酔い討論会"などが行われ、地方都市のあり方にについて活発な意見交換が行われた。

その後も全国各地においてまちづくり・地域づくりが実践に移っている。

そこで15周年に当たっては、全国各地において展開されているまちづくり・地域づくりを紹介、地域らしさを自らの手で計画・実践する、そのあり方を探ろうとするものである。

2) 内容

今年、「第46回都市計画全国大会」が本県において開催されるため、これに参加する全国各都市の中から「個性のあるまちづくり、手作りのまちづくり」を展開している市町村に、その内容や、その特徴についての紹介を依頼し、今後のまちづくり・地域づくりに役立てるための意見交換を行う。

3) 開催日時、会場(予定)

- (1) 日時 平成6年10月22日(土)
13:00~

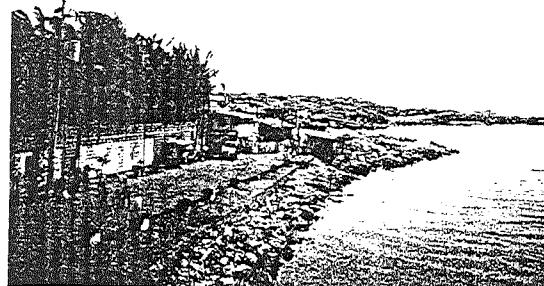
- (2) 場所 福井商工会館

ある分科会活動が現象記述型から提言型へ転換していくようにとしめくくつた。

暑い夏です。いかがお過ごしでしょうか。今期より広報を長谷川と本が担当させていただきます。まずは、最初の仕事となつたREFニュースをお届けします。なるべくホツトナ情報を伝えたいとお思います。何分二人では取材の限界がありますので、会員皆様の投稿、話題提供をお願いいたします。

次回は今期の目玉であります第十五周年記念行事についてお知らせしたいと思います。E.F.ニュースをお届けします。お問い合わせください。

編集後記



《スマーキーマウンテン》

この度、REF第十一回海外研修・マニラ都市調査団が無事その調査を終え、帰国。今回はREF単独の研修旅行で、その成果のほどを前川調査団幹事長に報告願つた。なお調査の詳細については十一月予定の談話会で報告される予定である。

海外都市調査団無事?帰国

マニラ都市調査団は謎のうつ・ふ・ふ

前川 政人

一九九四年八月二十三日、REF第十一次海外研修・マニラ都市調査団を乗せたタイ航空便は予定より一時間遅れて大阪国際空港に着陸し、何はどうあれ、研修旅行を終えることができた。

今時のマニラ都市調査はREF海外研修の第十一次になるわけです。「自主的」の予約など、研修会担当幹事の整、航空券やマイクロバスの加藤式男氏には大変な

ご苦労をいたしました。またフィリピン国立大学で教鞭をとつておられる山田稔氏には、マニラ滞在期間中全般的なバックアップをしておりました。

さて、今回の研修旅行の立役者である加藤式男氏に立つてのエピソードを書かれて、今回もマニラ滞在期間中全般的なバックアップをいただき、参加者一同感謝しております。

さて、今回の研修旅行には参加できませんでした。理由は大切なバスポートを紛失したためです。前日の夜半まで、家族総出で探しめぐるところがでござりません。加藤氏の姿はありません。我々十三名は、終て川途方に暮れました。急遽、武田先生に新しい船で次第行を終りました。

田研修そのものは川上・山

西充実したものは川上・山

☆ 大学院生の社会勉強とそ

とつています。詳しい研修内容につきましては、現在作成中の都市調査報告書をご覧下さい。

次に私の全責任のもとに、いくつかのエピソードを披露したいと思います。

☆夕食とアルコールについて



《夕食・ナンドウにて》

REF第十一回海外研修・マニラ都市調査団は、タイ航空便でマニラに到着した。そこで、マニラの街並みを散策したり、マニラの文化や歴史を学んだりして過ごしました。また、マニラの夜景を見たり、マニラの夜の街並みを散策したりしました。

マニラの街並みは、とても美しいと感じました。また、マニラの文化や歴史についても、とても興味深く学ぶことができました。マニラの夜景は、とても美しいと感じました。また、マニラの夜の街並みを散策したりしました。

マニラの街並みは、とても美しいと感じました。また、マニラの文化や歴史についても、とても興味深く学ぶことができました。マニラの夜景は、とても美しいと感じました。また、マニラの夜の街並みを散策したりしました。

マニラの街並みは、とても美しいと感じました。また、マニラの文化や歴史についても、とても興味深く学ぶことができました。マニラの夜景は、とても美しいと感じました。また、マニラの夜の街並みを散策したりしました。

分科会再生に向けて アンケート実施!

アンケート実施要領

目的：分科会の実態を把握し、分科会の再生、REF活動全体の活性化を図る

期限：平成6年10月21日（金）

提出先：分科会加入者は分科会長
非加入者は橋本幹事長

非加入者は
同封の封筒で返信願います

今期最初の幹事会が去る九月二日REF会議室にて開催された。橋本幹事長の掲げる「分科会の再生」が主な議題として議論され、現状の問題点として、会員の増加に伴い、REFに対する期待度が多様化していること、会員が固定化してFに対する期待度が多様化していることなどが挙げられた。当面は、会員の増加に比べ、分科会活動会員が固定化してFに対する期待度が多様化していることなどが挙げられた。会員が固定化してFに対する期待度が多様化していることなどが挙げられた。

入会のお知らせ
この度新しくREFの会員となられた方を紹介します。

正会員
藤本 聰 福井県都市計画課

「交通」峰について地理的側面から調査研究的「地盤」足羽川旧河道の変遷を調査し、液状化についての「邑都」地域性についての社会学的アプローチ、「談話会」年5回開催目標とする「海外研修」今回のマニラ研修の報告書を作成する。「研修の報告書を作成する。十五期の研修先等についても早めにアンケート調査を行なう」という手づくりのまちづくり」を確立していきます。次回欠なよに日認は代り降幹事もいれたことを不都合なことは、出席各一ととなりますが幹月が場

REF15周年記念行事開催間近

テーマ決定
「市民と行政 そして まちづくり - パートナーシップを考える - 」

プレゼンター（敬称略）	
市町村名	氏名、発表テーマ（仮題）
◎静岡県掛川市	山本 君治 「掛川市・街づくりへの挑戦」
◎埼玉県越谷市	落合 茂樹 「越谷市の街づくり」
◎滋賀県 近江八幡市	木俣 美好 「近江八幡市における伝統的な町並みの保存について」
◎福井県武生市	石田 建夫 「武生市中心市街地の再生について」
◎福井県芦原町	（予定）

日時：平成6年10月22日（土）13:00～
会場：福井県職員会館

REF15周年記念行事実行委員会構成

◎実行委員長	橋本栄治
◎行事企画 ・涉外担当	前川政人、川上洋司 中村毅、加藤哲男 加藤式男、稻葉隆夫 坪川敏幸
◎会場担当	野村吉範、滝波栄治
◎広報担当	長谷川義則、三田村佳紀
◎会計担当	小嶋直人、龍崎俊和

「第四十六回都市計画全国大会」が本県において開催されるため、これに参加する全国各都市の中から個性のあるまちづくりを地域づくりに役立てるための意見交換を行おうとする手づくりのまちづくり」を確立していきます。次回欠なよに日認は代り降幹事もいれたことを不都合なことは、出席各一ととなりますが幹月が場

たします。
REF結成十五周年記念行事に関して、その詳細が決しましたので、報告い

編集後記

☆ 行事についての連絡

- ・問い合わせ先
- REF幹事長 : 橋本 栄治
- REF副幹事長 : 中村 毅
- REF参与 : 加藤 哲男
- TEL 0776-21-1111
(内) 3453 橋本
(内) 3454 中村、加藤
- FAX 0776-22-8164

猛暑の最中旅立った海外研修調査団も無事帰国しました。もう十月。十五周年記念行事まで十日ほどになりました。行事の企画は実行委員会でつめてきたわけですが、メインのプレゼンテーターの調整が、諸般の事情で手取り戻すのが遅れてしましました。しかし、当日は五人間取り皆様にお知らせ下さい。スカッシンテーション、懇親会のプレゼンテーターを招いて、まちづくりについて熱い議論が展開されると思います。REFパワーの結集に期待したいと思います。



魅力のまちづくりと行政連携を

22日福井で「考える集い」

県内外の実践例

まちづくりの講演会

REF 市民と行政そしてまちづくりの講演会

福井地域環境研究会

主催 福井地域環境研究会

後援 福井県・福井新聞社

会場:福井市中央3-1-5 三谷ビル204

開催日:1994年12月22日

開催時間:午後1時半～3時半

参加料:無料

問い合わせ:福井地域環境研究会 (0776) 27-0078

▲福井新聞に記事掲載

冒頭で挨拶する本多会長▶

『市民と行政そしてまちづくり』華々しく開催!

一般からも18名の参加

今年度の目玉であるREF結成15周年行事『市民と行政そしてまちづくりパートナーシップを考える』が、さる10月22日県職員会館にて開催された。参加者数は約70名にのぼり、先進的なまちづくりの事例発表と質疑応答が行われた。発表者からは行政と住民とのコンセンサス作りの工夫や苦悩、フロアからはまちづくりのヒントを得ようとする質問等が出され、盛況のうちに閉幕となった。



この日は、商工会議所で藤本義一、俵万智らによるシンポジウムも開催されており、参加人数の確保が懸念されたが、事前の新聞掲載による広報の成果もあり会員四十六名、一般十八名の参加を得ることができた。冒頭、本多会長からは、シェリーラーンスタンイン（社会学者）の住民と行政の関係八段階説を引用しながら、福井も六番目の段階である「パートナーシップ」の時期に入っているといふあいさつがされた。

その後、中村副幹事長の司会で進行し、笛木竜三氏（衆議院議員）祝電披露の後、県外三市、県内2市町村の都市計画担当者からスライド等を交えて、有意義な事例報告がなされた。質疑応答は、十五分程度の時間しかとれなかつたものの、会員一般とわざ積極的に質問意見が出され、各発表者から、回答を得ることができた。

恒例の懇親会は三十五名が参加して行われ、川上副幹事長のあいさつの後、富田顧問の乾杯で開宴し、まちづくり論議や二十周年に向けてREF活動の話などに花が咲いた。各市町の発表内容は裏面参照のこと。

第二回幹事が去る十一月二日REF会議室にて開催された。

十五周年記念行事の結果報告としては、行事はほぼ予定通り進行し、トラブルもなく順調に終えた。

△交通分科会

後援会の決算は左表の通りで、予算六十万より十万ほど減額となつた。なお講演の内容は、テープをおこしてREF十五号に掲載する予定であるとのこと。

その他に、先ほど行われたアンケート調査について中間報告がなされた。幹事會現在でまだ二十七名の解答しか無く、早急に分科会長が幹事長まで提出するよう報告された。

△緑分科会

二回開催。街路樹について。樹種選定、構造、土壤などを研究。現地調査を行う予定。

△地盤分科会

二回開催。足羽川旧河道について研究。次回ボーリング調査を行おう予定。

二回開催。現在、研究の視点を模索している段階である。

次回研修会については、前回のアンケート調査で、マニラに次いで二番目に希望の多かったベトナム案で調整するが、今回もまたアンケートを行うかもしれない

そして、第十五期中間発表会の実施計画案については、二月三日に福井県民会館で開催することに決定した。

分科会活動報告は次の通り、

現在二回開催。テーマは峠の研究。

REF結成15周年行動決算報告

1) 収入の部

費目	予算	決算(A)	増減
積立金取崩	450,000	400,000	△50,000
一般会計繰入	50,000	50,000	0
懇親会会費	100,000	53,000	△47,000
計	600,000	503,000	△97,000

2) 支出の部

費目	予算	決算(B)	増減
講演者関係費	140,000	136,800	△3,200
会場関係費	76,000	67,000	△9,000
広報関係費	30,000	7,247	△22,753
現地視察関係費	6,000	1,400	△4,600
食料費	30,000	29,000	1,000
懇親会関係費	292,000	222,172	△69,828
その他	20,000	31,439	11,439
予備費	6,000	0	△6,000
計	600,000	495,058	△104,942

残金(A)-(B)= 503,000 - 495,058 = 7,942
(一般会計に還付)

第四十回談話会開催される！

今年八月にギリシャを訪ねたI

R E F 都市調査団をゲストに迎え、
今期初めての第四十回談話会がさ
る十一月二十五日職員会館にて開
催されました。

本多団長の挨拶の後、最初に、
都市調査班である富田伊太郎氏に
より「アテネの都市景観」の調査
内容が発表された。非常に豊富な
スライドとともに、アテネ市内を
はじめ様々な視点での景観が紹介
された。

引き続き、研修講師で建築史調
査班の白井秀和氏により「アテネ
の歴史的記念建造物を巡って」の
調査内容が発表された。調査され
た建造物のデザインの意味や仕組
みなどたいへん興味深い発表がな
され参加者（十九人）からスライ
ドに関して様々な意見、質問が飛
び交った。

なお次回は R E F 都市調査団に
よるマニラ都市調査報告を予定し
ております。皆さんの積極的な参
加をお願いします。



編集後記

今年も“ボーナス”“初
雪”と、日に日に年の瀬ら
しくなってきました。七月
の総会に始まった R E F 十
五期も、はや前半を終えよ
うとしております。恒例の
中間報告会も二月三日に決
まりました。ちなみに、十
四期は、優秀研究の表彰
(地盤が授賞)があり、今
期もおそらく表彰があるの
では?と思われます。また
有意義な後半の研究につな
げるためにも、聞きこたえ
のある発表を期待したいと
思います。資料整理等あわ
ただしい年末になる分科会
もあるかもしれません、が、
皆様よいお年をお迎えくだ
さい!

歴史的町並みを整備するため、
「街づくり協定」を行政と住民と
が締し

官民一体的となつて「古都」
武生の再生に取り組んでいる。

『芦原町 坪田清孝氏』

ウン化が進んでいるが、国の重
要伝統的建造物群保存地区と
なつており文化財の多い都市で
ある。現在、都市計画法に基づ
き町並み保存地区を決定し、
「外観の修復、修景に係る費用
の補助」を行い、総合して古い
まちづくりを実施している。こ
との発端は古い堀を再生する市
民運動が契機となつた。しかし、
歴史的遺産の評価認識が十分行
われていないジレンマがある。
保存と開発の調和が重要である
と思う。

『武生市 石田建夫氏』

三十万人に急成長。経済情勢を
熱慮しながら、調和ある発展が
求められている。かねてより親
水空間の多い地形に合わせて、区
画整理の際には「リバーサイドタ
ウン」化や「レイクタウン」化を
実施している。また、建設省の工
業化や環境庁のエコトピアの
指定など国のモデル事業を多数活
用している。さらに市民のまちづ
くりに対しても資金助成制度を設
けている。

『滋賀県近江八幡市 木俣美好
氏』

近江八幡市は京阪神のベットタ
ウン化が進んでいるが、国の重
要伝統的建造物群保存地区と
なつており文化財の多い都市で
ある。現在、都市計画法に基づ
き町並み保存地区を決定し、
「外観の修復、修景に係る費用
の補助」を行い、総合して古い
まちづくりを実施している。こ
との発端は古い堀を再生する市
民運動が契機となつた。しかし、
歴史的遺産の評価認識が十分行
われていないジレンマがある。
保存と開発の調和が重要である
と思う。

『武生市 石田建夫氏』

三十万人に急成長。経済情勢を
熱慮しながら、調和ある発展が
求められている。かねてより親
水空間の多い地形に合わせて、区
画整理の際には「リバーサイドタ
ウン」化や「レイクタウン」化を
実施している。また、建設省の工
業化や環境庁のエコトピアの
指定など国のモデル事業を多数活
用している。さらに市民のまちづ
くりに対しても資金助成制度を設
けている。

『芦原町 坪田清孝氏』

三十万人に急成長。経済情勢を
熱慮しながら、調和ある発展が
求められている。かねてより親
水空間の多い地形に合わせて、区
画整理の際には「リバーサイドタ
ウン」化や「レイクタウン」化を
実施している。また、建設省の工
業化や環境庁のエコトピアの
指定など国のモデル事業を多数活
用している。さらに市民のまちづ
くりに対しても資金助成制度を設
けている。

発表要旨

15周年行事

入退会のお知らせ

今回、新たに坂川優氏が
入会されました。そして、
舟渡悦夫氏(No. 145)が、正
会員から会友に変更。盛岡
正男氏(No. 190)の退会が承
認されました。

REF活性化に関する アンケートについて

先日行われたアンケート
調査の返却がまだ十分であ
りません。まだの方は、お
手数ではあります、橋本
幹事長か、各分科会長の元
へ、お送りください。

REF十五期中間報告会が、さる二月三日県民会館にて開催された。この中間報告会は毎年この時期に開催され、各期の中締め的な意味と後半に向けての方向付け的な意味を兼ね備えており、分科会活動にとつて重要な場となっている。

今回は、四〇名が参加、発表五分、質疑三分の時間割で六分科会から前半期間の研究成果が報告された。各発表毎に講評者による講評、全発表の後に前川政人氏による総評があり、各分科会にとって適切なアドバイスになつたと思われる。土地利用分科会からの報告がなかつたのが気がかりだが、後半の盛り返しに期待

REF十五期中間報告会
開催される

奨励賞は地盤が受賞！

したいところだ。

そして、半年ぶりにREFに元気な顔を見せた児玉副会長のあいさつで閉会となつた。

その後、恒例の懇親会（三十名参加）が行われ、橋本幹事長のあいさつの後、山本迪氏の乾杯で開宴し、IREからの奨励賞が本多

会長から発表された。昨年

に引き続いて地盤分科会の受賞となつた。本発表が楽しみだ。

またこの日は、阪神大震災の義援金も受付され、一万六千円がREFとして寄付された。ご協力に対し、お礼申し上げます。



▲奨励賞を受賞した地盤の発表（前田さん）

▲発表に聞き入るフロア



— 各 分 科 会 の 発 表 概 要 —

《交通》 発表：橋本拓己 講評：竹内成和

「峠」の研究 一交流からみたアプローチー

峠にスポットを当て、交流の歴史的变化を探る。県内においても美濃街道の油坂峠、鯖街道の水坂峠など多くの峠があるが、古来より重要な交通の要所として機能していた。しかし、車社会の到来によりトンネル等でその不便さが解消され本来の意義が薄れてきたと思われる。今後、峠を利用した地域活性化策を考えていく。

《緑》 発表：三田村佳紀 講評：嶋田喜昭

街路樹の植栽手法について

街路樹の実務担当者に緑の専門家が少ないと従来より「樹種の選定」「植樹マスの構造」「土壤の選定」の設計に迷うことが多く、従来の基準から一步進んだ指針の作成を目指している。現在この3項目等について現地調査を実施しているところであるが、今後補足調査を実施し、考察を深めたい。

《地盤》 発表：前田光康 講評：橋本栄治

足羽川の河道位置の変遷に関する考察

足羽川の旧河道（戦国時代末期）位置を解明するとともに、旧河道位置に起こりやすいとされる液状化の問題についてまで考察する。対象区間は天神から下市間とし、「航空写真判読」「遺跡や現集落の抽出」「地名の調査」「古文書の調査」「既存ボーリングデータ」の調査を実施する。

《邑都》 発表：山田泰之 講評：白井秀和

イメージとしての「地域性」とその計画論への展開地域に対するイメージ形成要素に関する部分について可能な限り定量的に捉え、地域性の把握手法の洗練化や分析結果をどのような形で地域計画に取り入れができるかを考察する。分析方法としては、形容詞句対（動的一静的等）と事象・事物（駅前、SC、大仏等）との関係を捉えていく。

《地象》 発表：龍崎俊和 講評：杉森正義

防災都市づくりに向けての考察

前期より第2福井地震に向けての防災体制を研究している。特に、今回阪神大震災が発生したことに鑑み、この経験・教訓をいかした住民参加型の防災体制を考察する。今後アンケート調査等により、災害時に必要な情報の収集・発信の協力体制や行政と住民の役割分担等の検討を行う。

《都市美》 発表：白井秀和 講評：宮本幸数

カトルメール・ド・カンシーの都市論

カトルメール・ド・カンシー(1755-1849)の著わした『建築歴史辞典』の中の項目「都市 Ville」をテクストに「都市」概念について、歴史的にさかのぼる。カンシーは、都市を自然発生型と計画型とに分類し、それぞれの利点を挙げているが、その両者の結合を力説したいものと考えられる。最終的には現代都市をも含めて考察したい。

主な内容としてはREF十五号の

編集、分科会活動に対するアンケート調査の結果報告、海外研修等についてである。

分科会会长による活動報告は、各分科会ともに中間報告会以来開催しておらず、近々開催したいとのことである。

次回談話会については、四月中には開催したいということである。内容はまだ未定だが、予定として杉森氏にシルクロードについて語っていただくとか。

次回幹事会は五月十日です。幹事の方は必ず出席するようお願いします。

第四回幹事会

REF十五号の編集について

現在のところ以下の予定であるが、今後編集委員会で決定していくようだ。

▽発行日

七月上旬の予定。原稿締切は六月十五日。

▽編集委員

(広報) 長谷川、本、(総務) 野村、滝波、分科会から各一名(四月中に分科会会长は長谷川まで報告)

▽予算

二十一万円。

▽内容

卷頭言、特別投稿、REF十五周年記念行事、研究報告、活動報告、地域間交流報告、福井地域環境研究会規約、会員名簿、REFニュース。

今年度の海外研修はベトナム(ホーチミン)に決定。日程、内容等については、別紙参照の通りで、今後参加希望者の意見を聞いた後、その意見を集約し決定したいとのことです。

REF理論研究会 実施(案)

理論研開催については、以下のような案により実施したい。

1. 実施形態

あるテーマについて、話題提供者が話題を提供し、それに対して、参加者全員でフリートークを行う。

参加者の募集は、広報を通じて行うとともに、各分科会長の協力により、各分科会毎に会員を募る。

2. テーマ

例として

- 1) 4全総の総括と五全総
- 2) 阪神大震災の教訓
- 3) 国際化と福井
- 4) その他、地域に関係する時事問題

これらの様な、時事問題と地域という観点からテーマを取り上げたい。

初回開催日はまだ未定だが四月中に開催したい。

参考企画 参加者募集

阪神大震災現地調査

REFでは、4月30日(日)に阪神大震災の現地調査を実施することになりました。調査団の規模は10人程度。各分科会からのメンバーを中心につくり、それぞれテーマを設定して調査を行う予定です。分科会以外も若干名参加できますので、参加希望者は4月9日までに副幹事長の中村まで連絡してください。

連絡先：福井県都市計画課内 中村

TEL 21-1111
(内3456)

編集後記

梅の香りがただよい、もうすぐ足羽川の桜も咲きこぼころうとしています。福井も春です。しかし今年は年が明けて以来、阪神大震災・円高・地下鉄サリンと日本列島を揺さぶるような事件が次々に起き「安全な国」から一転「物騒な国」と化した感があります。

阪神大震災については、REFも独自の調査を企画しました。日帰りの調査ではありますか、被災地を会員自らの目で見ることはREFにとっても財産になると思います。旅費支給となっていますので積極的な参加をお願いします。

REF活動の活性化に向けた アンケート調査結果

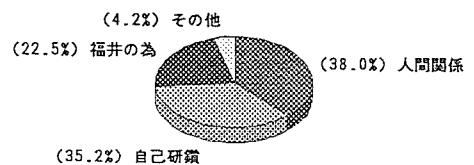
REF分科会の実態を把握し、分科会の再生を図るために、REF正会員101名、及び学生会員19名の計120名を対象に、昨年9月にアンケート調査表を配布、2月3日の第15期中間報告会を持って調査票の回収を締め切った。その主要な結果を以下にとりまとめた。今後、この結果を活用しREF活動全体の活性化に役立てたい。

回収票及び回収率 44票/120票(36.7%)

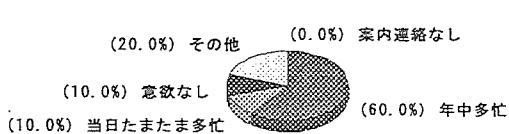
回答者の業種(産官学)区分
回答数:n=44



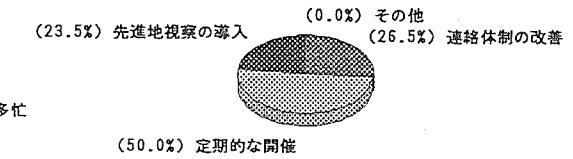
REFに参加した理由
回答数:n=41 (複数回答:n=71)



昨年、参加しなかった理由
回答数:n=7 (複数回答:n=10)



分科会活動参加に向けた改善策
回答数:n=20 (複数回答:n=34)



◇その他の提案などの意見

- ・地域へのアピールをもっと積極的に行うべき。
- ・入会時に分科会加入を義務づけてはどうか。
- ・規模拡大よりも、組織、内容の充実を。
- ・レベルの高い研究は取り組みにくい。もっと取り組みやすいテーマで。
- ・分科会を固定せずに、テーマ毎に分科会を作つて会員を募集してはどうか。
- ・自分自身のやる気を出してほしい。



▲あいさつする本多会長



▲乾杯がさまになる丹原氏

第十六回総会が七月八日
福井商工会議所で開催され
第十六期を迎えるREFの
予算案・役員案等が審議、
議決された。

今年は例年の職員会館な
ら会場が商工会議所にグレ
ードアップされ、総会には
会員会友あわせて四十六名
が出席した。本多会長あい
さつ、尾関会友祝辞、橋本
幹事長による第十五期活動
報告の後、竹内氏を議長に
選出し議事に移った。

議決事項としては新任九
名を含む新役員案と総額約
二百万円の予算案が事務局
より提案されたが、いずれ
も原案どおり議決された。
新幹事長や新分科会長か
らは今期REF活動に対し

ての決意表明（裏面参照）がされた。十五期の研究報告ができなかつた地象分科会からは会員募集のチラシが配布されるなど各分科会長からは今期の分科会に対する決意がみられた。
二二（見晴らし良好な高級レストラン）に移し、丹原氏の乾杯で懇親会が幕を開け質・量とも満点の料理を前に産官学の会員相互に交流を深め、楽しい歓談の時間が過ぎた。

会長	本多義明 (福井大学工学部教授)
副会長	児玉忠 (福井県建設技術所総括研究員)
幹事長	橋本栄治 (福井県福井土木事務所専門員)
副幹事長	中村毅 (福井県朝日土木事務所専門員)
幹事	○加藤式男 (帝国コンサルタント部長代理)
〔地域交流〕	
〔総務〕	野村吉範 (福井県河川課技師)
〔財務〕	小嶋直人 (福井県大野土木事務所技師)
〔広報〕	長谷川義則 (福井県駅周辺整備事務所技師)
〔談話会〕	○堂本博滋 (総合環境設計事務所代表取締役)
〔論文理論研〕	稻葉隆夫 (福井県道路建設課係長)
〔研修会〕	○三田村佳紀 (福井県都市計画課技師)
〔総務支援〕	滝波栄治 (福井県監理課技師)
〔財務支援〕	龍崎俊和 (福井市農村整備課技師)
〔広報支援〕	○寺内義典 (福井大学大学院工学研究科)
〔談話会支援〕	○鈴木康弘 (福井大学大学院工学研究科)
〔理論研支援〕	○川本義海 (福井大学大学院工学研究科)
分科会長	
〔交通〕	嶋田喜昭 (福井大学大学院工学研究科)
〔土地利用〕	武井幸久 (福井工業高等専門学校助教授)
〔緑〕	○宮本幸数 (宮本設計事務所取締役)
〔地盤〕	○竹内成和 (福井県今立土木事務所専門員)
〔邑都〕	○加藤哲男 (福井県都市計画課技術主任)
〔地象〕	○龍崎俊和 (福井市農村整備課技師)
〔都市美〕	白井秀和 (福井大学工学部教授)
参 与	○加藤哲男 (福井県都市計画課技術主任)
監 督	○近藤幸次 (福井県道路建設課課長補佐)
顧 問	栗田幸雄 (福井県知事)
○は、新任役員	
今野修平 (大阪産業大学教授)	
富田伊太郎 (サンワコン専務取締役)	
富永六郎 (コミニテイ企画研究所所長)	

第十六期 徒員・予算案議決！

三役は続投・予算規模は約二百万円

《第15期 決算報告（H6.4.1～H7.3.31）》

費目		決算 (A)
目	節	
会費	正会員	1,565,500
	学生会員	1,156,000
	会友	36,000
	中間報告会	203,500
	総会	75,000
		95,000
総入金		179,183
預金利子		367
寄付金その他		0
会費未納金		60,000
計		1,805,050

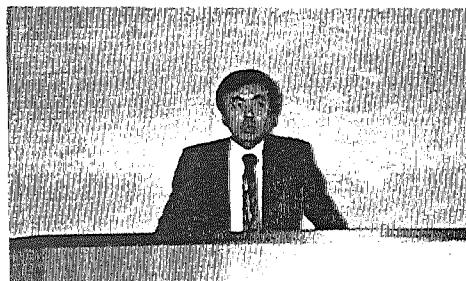
$$\begin{aligned} \text{緑越金} & (A) - (B) \\ & = 1,805,050 - 1,653,230 \\ & = 151,820 \end{aligned}$$

《第16期 预算(H7.4.1~H8.3.31)》

収入の部		支出の部	
費目		決算	
目	節	目	節
会 費		事業費	1,040,000
正会員	1,715,000	分科会活動	350,000
学生会員	1,212,000	理論研究会	50,000
会友	51,000	談話会	100,000
中間報告会	282,000	研修会	330,000
総会	75,000	機関誌購費	210,000
緑 入 金	95,000	会議費	420,000
預 金 利 子	151,820	中國報告会費	140,000
寄付金その他	180	総会費	260,000
会費未納金	2,000	幹事会費	30,000
	76,000	事務費	163,000
計	1,945,000	会議室料費	30,000
		通信連絡費	100,000
		旅費	15,000
		雜費	18,000
		予備費	172,000
		積立金	150,000
		計	1,945,000

橋本幹事長、決意表明！

総会で橋本幹事長の留任が決定した。第十五期の任期中には、十五周年記念事業を成功させた。二年目の本期は、REFをどう運営していくのか、その決意を取材した。



▲決意表明する橋本幹事長

ケート調査を実施しているので、その結果の活用を含めて今年はよりいつそう取り組んでいきたいと思つている。

例えば時期報告会からは、「分科会活動報告」の内容を単に開催日とメンバーの記録にとどまらず、開催日毎の活動内容をより具体的に記録し、分科会活動の定期的開催と活動内容の充実を図つていくことを幹事会で既に決定している。

昨年、分科会の再生（活性化）を一つの目標に掲げたものの、結果的に活動の停止した分科会が二つも出てきたことを非常に残念に思い、反省している。再生に向けた手掛かりをつかむためにアンケート調査を実施しているので、その結果の活用を含めて今年はよりいつそう取り組んでいきたいと思つている。

一方、昨年のREF結成五周年記念事業では、全国のまちづくりの実例を通じて「市民とのパートナーシップ」のあり方について学んだところである。談話会や理論研への住民参加を始め、REFとして「住民」とどのような関わり方があるか、これについても具体的な方法を検討していきたい。

REFが地域づくり・まちづくりのリーダー的役割を演じることもその一つではないかと思っている。

主に議論となつたキーワードとしては、

- ・利便性と歴史文化的調和
- ・マニュアル化と個性化
- ・地盤と土地利用の歴史
- ・地域性の定量化
- ・建築物と都市景観
- などで、REFならではの議論が展開された。

土地利用と地象が報告できなかつたことが残念であるが十六期の活動に期待したいところである。

雨の多い梅雨です。各地の災害が気になる昨今いかが過ごしでしょうか。

広報は今期も長谷川が担当させていただくことになります。支援は福大M1の寺内に変わりました。今期もホットなニュースを提供していく

第十五期

研究成果発表される

編集後記

入会・退会のお知らせ

1. 総数

	H7.2	H7.7	増減
正会員	100	101	+1
学生会員	19	19	±0
会友	41	47	+6
計	160	167	+7

2. 入会

- ・正会員
鈴木奈緒子 (No.138) 朝日郁代 (No.190)
戸倉一恵 (No.168) 山下隆市 (No.133)
- ・会友
山田浩二 (No.347) 横田裕 (No.348)
- ・学生会員
大井麻理子 (No.504) 木村晃規 (No.505)
鈴木康弘 (No.509) 高田弘幸 (No.511)
寺内義典 (No.520)

3. 退会

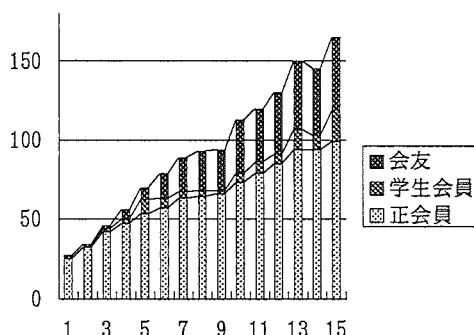
- ・正会員
宮田藤波 (No.154) 白崎智美 (No.193)
- ・会友
石間浩司 (No.308)
- ・学生会員
山田英代 (No.503)

4. 異動

- ・学生会員→正会員
酒井理恵 (No.345→No.154)
- ・学生会員→会友
川尻竜也 (No.504→No.342)
奥田臣一 (No.505→No.344)
朝井正弘 (No.511→No.346)
- ・正会員→会友
南保祐心 (No.168→No.308)
松本隆二 (No.133→No.315)

REF一口メモ

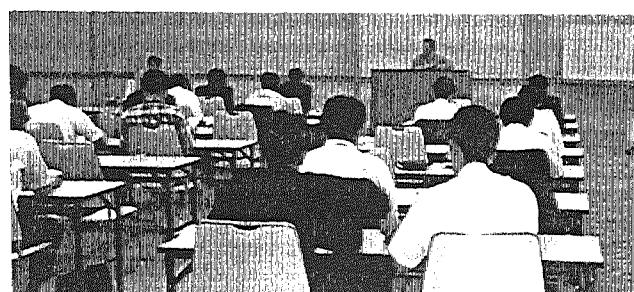
REF会員数の推移



S55年に会員27名で発足したREFも今や167名を数える大所帯となりました。そこでその推移を調べてみると・・・

その結果が上のグラフです。10期目に100名を越えた後も、着実に増加傾向にあり、今後も益々増加することが予想されます。

この人的ネットワークを活用していくればREFの新たな可能性が開けてくるのではないでしようか。



▲発表に聞き入るフロア

REFの広報を一年担当して、情報収集とその整理さらにプレゼンテーションの重要な性を感じています。少し前まではヒト・力・モノが組織の三大資源といわれてきましたが、いまはこれにまして「情報」という資源が重要だといわれています。会員会友全体会議が情報を共有できるようにしていきたいと思います。

今期もニュースへの意見、話題提供等ございましたら是非広報まで一報くださいます。



▲ チョロン地区の混雑状況

テーマは「自主性」と「挑戦」

第12次海外研修

本一チニンより無事帰国！

第十二次REF海外研修は、

七月三十日（日）に予定どおり
関西国際空港を離陸し、ベトナム社会主義共和国・ホーチミン市での全日程をほぼ計画に沿つて調査を終え無事帰国。九名の

調査団員は現地で「鉄道調査班」「ロータリー式交差点・交通調査班」「サイゴン川調査班」の三班に分かれ調査を実施。意義深い調査が行われたようだ。詳

細は、都市調査報告書を鋭意作成中であり近日中に披露できる予定で、十二月頃には談話会での発表も予定。今回担当幹事の加藤式男氏にその概要を報告してもらいう。

2. 最もびっくりしたこと

出発前数回にわたる勉強会は、思ふように資料が集まらない状況でありましたが、川上先生が「国際協力事業団：任国情報」の資料、福井商工会議所の浅井氏から経済情報をいただきました。

また、会員がそれぞれホーチミニ市の地図の購入や新聞の特集記事の切り抜き等の持ち寄りもあって何とかそれなりの知識を得ることに努力をしました。

しかし、残念なことに昨年のような公的な機関との交流は出来ないままに終わつたことは担当幹事として申し訳ないと思つています。

ここでは、簡単に研修の一部を紹介しておくことにします。

昨年に引き続きREF単独の海外研修であり、添乗員がいなければもちろん、ホテルでの朝食以外はレストランを選び、たどたどしい会話でオーダーし、清算しなければならなかつた。都市の調査方法は、市内観光を行つた日の夜にメンバーがそれ意見を交わして最終決定した。調査の移動手段としては「タクシー」「シクロ」「客乗せ式自転車」「貸し切りの船によるサイゴンクルーズ」「レンタサイクル」など、観光案内書による要注意手段を用いての果敢な調査であり、まさに「自主性」と「挑戦」のREF海外研修であつたといえます。

京都までの研修で終わつてしまつた人のことです。とつても大切なパスポートを忘れてしまつたのでした。京都駅プラットホームはまさに戦場と化し、まさかの事態に「緊急時の連絡先」への問い合わせときりぎりまで待つてもらう交渉など、でき得る限りの努力と本人の必死の願いもむなしく、昨年同様一人欠落したままの状態での出国となつてしまひました。一同、昨年の記憶がよみがえり、分かりすぎるほどの心境を察しながら関空への連絡橋を渡ることとなりました。

1. 最も慌てたこと

京都までの研修で終わつてしまつた人のことです。とつても大切なパスポートを忘れてしまつたのでした。京都駅プラットホームはまさに戦場と化し、まさかの事態に「緊急時の連絡先」への問い合わせときりぎりまで待つてもらう交渉など、でき得る限りの努力と本人の必死の願いもむなしく、昨年同様一人欠落したままの状態での出国となつてしまひました。一同、昨年の記憶がよみがえり、分かりすぎるほどの心境を察しながら関空への連絡橋を渡ることとなりました。

3. 最も嬉しかったこと

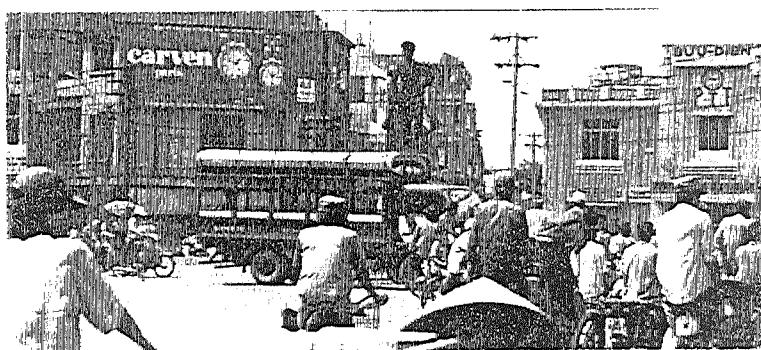
なんといつても食事でした。

ビールは「333」、スープはホワイトアスパラガスとカニを材料に卵でとろみをつけた「スープマンクア」。日本でいうと「寄せ鍋」に匹敵する山海の材料が入る「ラウタツプカム」。いろんなものを強烈な香料といつしょにライスペースペーで包んで食べる「？」。食後のデザートは「パパイヤ・バナナレイン・ピタヤ」等々。電気事情が悪いことから冷蔵庫などがさほど普及してなく、その日にとれた新鮮な材料を料理に出さざるを得ないことも美味しい秘密なのかもしれません。都市調査で疲れきつたため宿泊先のホテル内のレストランでのフランス料理は一番印象のうすいものとなる程度、あとは、ベトナム料理で通したことも自慢の一です。気になる料金は、ビールを心ゆくまで飲んでも十五U.S.\$とリーズナブルでした。

以上ほんの一部を紹介しましたが、研修先を東南アジアに絞つて二年間海外研修幹事を努めまして、参加者始め多くの人に協力して頂いたことに感謝し、紙面を通してお礼申し上げます。

「ありがとうございました。」

今期の幹事となつた三田村氏には、自分にはできなかつた、斬新な企画で新しい局面を切り開いてほしいと思います。



▲ ロータリー式交差点とモニュメント



▲ 調査団の面々 (於: クチトンネル)

みなさん積極的に参加を！

REF共催

I R E 創立十周年シンポジウム

「都市計画史が語る地域のあゆみとこれからの都市計画」

(財) 地域環境研究所 (I R E) の創立十周年を記念し「福井まちづくりの歴史」が出版され、そのシンポジウムが以下のように開催されます。

日時 平成 7 年 10 月 7 日 (土)

午後 2 時から 5 時

会場 福井商工会議所ビル 会議室 A・B

プログラム

1. 基調講演

「認識転換に直面するこれからの都市計画」

講師 今野修平氏 (大阪産業大学教授)

2. パネルディスカッション

「福井の過去・現在・未来」

コーディネーター 本多義明氏

パネラー 富田伊太郎氏 吉田耿介氏 児玉忠氏
北島勝三氏 四ツ井昌子氏

3. 記念パーティー

日時 午後五時十分より

会場 福井商工会議所ビル 会議室 D

会費 三千円 (『福井まちづくりの歴史』書籍代含む)

I R E は、1985 年 4 月 1 日の創立以来、地域環境の向上を目指した地域の諸計画の立案のために、地方における地域環境に関する諸問題について、地域個別の特性を考慮した調査・研究を行い、地域の発展に寄与することを目的として活動しています。

問い合わせ先

福井土木事務所道路維持課

橋本栄治 Tel.0776-24-5110

入会のお知らせ

このたび、新しくREFの会員となられた方を、紹介します。

正会員

那須勝幸 (株)岡本鐵工所

分科会始動！

復活なるか理論研

態を調査し、官民の連携を
考察する。

【都市美】

今期第一回の幹事会が
(今期の活動方針)
九月八日、幹事一五名を召
集し、REF会議室で開催

された。冒頭橋本幹事長か
らは、今期の活動方針とし
て「分科会活動の再生」と
「官民パートナーシッ

プ」のありかたをさぐりた
い旨のあいさつがされ、各
幹事からも幹事長の意向
に沿った活動方針が報告
された。昨年活動が低調だ
った分科会や理論研がど
う復活されるか、担当幹事
の奮起に期待が寄せられ
た。

【緑】
昨期に引き続き「植樹マ
ス」のマニュアル化をめざ
す。

ここ数年活動が停滞して
いるので、再生に向けた検
討会を開催する。会員の皆
さんも理論研に対する御
意見がありましたら、担当

幹事(県庁稲葉)まで連絡
して下さい。

【地盤】

広域的調査を行い、机上か
ら現地の調査に入りたい。

年に一度、足羽川旧河道につ
いて、現地調査を行なう予定
です。

今年も経済対策に伴う
大型補正で、公共事業関係
の会員の方は忙しくなる
と思いますが、REF活動

編集後記

▼橋本幹事長体制も二期
目に入り、その真価が問わ
れる十六期がスタートし
ました。我々幹事も幹事長
を支え、意を新たにREF
活動を盛り上げたいと思
います。

【都市美】

まず人集めをし、新テーマ
で再生を図る。

【交通】

【交通】

【談話会】

【談話会】

【理論研】

【理論研】

【地象】

【地象】

談話会のおしらせ

I R E の海外研修が今年の
7 月 25 日～8 月 1 日にかけて
北欧において行われました。
そこで、来る 11 月 1 日「I R
E 北欧視察報告の談話会」と
題して以下のとおり談話会が
開催されます。

皆様ご多忙とは思われます
が、多数のご参加をお願いいた
します。

日時

11 月 1 日 (水)

午後 6 時 30 分より

場所

職員会館 204 号室

ゲスト

団長 本多義明氏
白井秀和氏
武井幸久氏

実施されているので、時期
と場所についてアンケート
を実施し、検討したい。

【研修会】

毎年暑い時期に暑い国で
実施されているので、時期
と場所についてアンケート
を実施し、検討したい。

今年も経済対策に伴う
大型補正で、公共事業関係
の会員の方は忙しくなる
と思いますが、REF活動

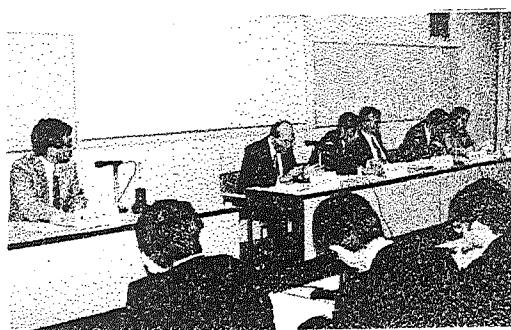
の活性化のためにも分科
会や談話会等に積極的参
加をお願いします。

REF共催

「IRE 10周年記念シンポジウム」開催される!!



▲熱弁をふるう今野先生



▲パネルディスカッションの様子

（財）地域環境研究所創立10周年記念シンポジウム
都市計画史が語る地域のあゆみとこれからの都市計画
（会場：福井市中央3-1-5 三谷ビル204、共催：福井市地域環境研究会）

冒頭、城谷理事から「地方シンクタンク設立は必要である」というあいさつがされた。

議所ビルにて開催された。参加者は約百二十名にのぼり、基調講演とパネルディスカッショ�이行われ、フロアから質問が盛んになりました。また、有意義なものとなつた。

議題は、「戦災復興の語り部」、「都心再生の語り部」、「都市拡大の語り部」、「未来都市の語り部」など、各部でパネラーによる討論が行われました。質疑応答では、今野氏にも参加していただき、活発な討論が行われました。

とともに、さる十月七日、記念シンポジウム「都市計画史が語る地域のあゆみとこれからの都市計画」が福井商工会議所ビルにて開催された。

そこで基調講演では、RE（大阪産業大学教授）が「認識転換」について話された。統一と多様性の問題と、以下の五人のパネラーによって「福井の過去・現在・未来」のパネルディスカッションが行われた。

Fの顧問である今野修平氏（大阪産業大学教授）が「認識転換」について話された。統一と多様性の問題と、以下の五人のパネラーによって「福井の過去・現在・未来」のパネルディスカッションが行われた。

「福井まちづくりの歴史」

本多義明
川上洋司
編著

理論研からのお知らせ

一月よりいよいよ始動



ここ数年活動が停滞し、存続が危ぶまれていた理論研が来年一月にいよいよ始動します。テーマは「地震とインターネット（仮）」。講師として、構造力学や計算機処理などを専門とされている福井大学の福井卓雄先生をお迎えしてスタートします。まだ記憶に新しい阪神・淡路大震災、またその時に活躍し現在TVなど

各メディアで取り上げられ、これからますます身近になります。開催要領は次のとおりです。皆様の多数のご参加をお願いいたします。

B6版・135頁
定価 1100円
発行 (財)地域環境研究所

日時 一九九六年一月二三日 午後六時三〇分より
場所 県職員会館
講師 福井大学工学部 福井卓雄先生



談話会報告

第四十四回談話会が去る一月一日に県職員会館にて開催された。テーマは、今年の七月二十五日～八月一日にかけて実施されたIREの第九次海外研修報告であった。ゲストには本多義明氏、白井秀和氏、武井幸久氏を迎えて「ストックホルムの建築」と「イエボリの交通事情について」をスライドを交えて紹介していただいた。ストックホルムの建築では、北欧のヴェルサイユ宮殿と呼ばれるドロツクホルム宮殿をはじめとしたストックホルム市街

の主要な建築物の探訪について失敗談を交えて、又、イエボリの交通事情についてはトラブル・ゾーン・システムのルーツを訪ねて、イエボリの交通の現況と将来計画、および日本における問題点等について現地の専門家の意見を交えて紹介した。最後に参加者のみなさんの質疑応答が行われ、それぞれ興味のある問題について補足説明をしていただけた。

REF 海外研修アンケート

REF 海外研修は、3回目の I.R.E の実施をめどたる準備を始めとしたいと思います。今であります。おきまして戴して施設を実地にて直接送り頂くか、お問い合わせ下さい。REF 海外研修を実施のための準備を始めとしたいと思います。今であります。おきまして戴して施設を実地にて直接送り頂くか、お問い合わせ下さい。

問い合わせ：福井県土木部都市計画課 三田村 佳紀
〒910 福井市大手3-17-1 0776-21-1111 内線3454
FAX宛先：0776-27-0078 (地域環境研究所)
(注)この用紙をコピーして頂くか直接記入の上提出してください。

以下該当するところに○をつけて下さい。

- (1) 参加意志
1. 必ず参加する。
2. 参加したいと思っている
3. 調査地や時期を見て決めたい。
4. 参加できない。

- (2) あなたが参加可能と思われる旅費
1. 10万円
2. 12~13万円
3. 15万円
4. 15万円

- (3) 行先について
1案 香港：中国総理基地区 (3泊4日)
2案 シンガポール (3泊4日)
3案 ジャカルタ (3泊4日)
4案 中国(蘇州・無錫) (3泊4日)
5案 その他

- (4) 参加する者に支援の考慮
1. 1万円*8人 (8万円)
2. 2万円*4人 (8万円)
3. その他

(5) あなたのことについてお答え下さい。

1. 氏名 _____
2. 過去の参加回数 _____

御協力ありがとうございました。

<参考までに・・・過去の調査地一覧表：出典REF報告書>			
S56:マニラ	S57:中止	S58:シンガポール	*印は I.R.E と合同実施
S61:釜山	S62:上海蘇州	S63:マレーシア	S59:ハノイ H01:中止 H02:不明
H03:上海杭州*	H04:北京天津*	H05:台湾台北*	H06:マニラ H07:ホーチミン

第2回幹事会

中間発表は一月二日に決定！

今期第二回目の幹事会が十一月十日、幹事十四名を招集し、REF会議室で開催された。総務担当の野村幹事から今期の中間発表会についての提案があり、協議の結果、二月二日(金)に幹事会で実施されることになった。これに向けて各分科会活動が加速されることが期待される。定数確保(四名)が問題だった都市美は加入希望者がいることが判明し、白井幹事を中心に再生に動きだすものと思われる。その他、昨期来の課題でREFが幹事全員で行われた。REFが地域のまちづくりにアドバイザーとして参画している住民グループと共に研究と共同研究がある「住民とのパートナーシップ」に関する意見交換が幹事会で行われた。

REFと同様の研究活動をされている住民グループとして、REFと共同研究がある「住民とのパートナーシップ」に関する意見交換が幹事会で行われた。REFが幹事全員で行われた。REFが地域のまちづくりにアドバイザーとして参画している住民グループと共に研究と共同研究がある「住民とのパートナーシップ」に関する意見交換が幹事会で行われた。

そもそも『住民とのパートナーシップ』とは誰と住民なのか?

「行政と住民」は理解できるが「REFと住民」とはどのようなかわり方をいうのか?

現在は住民の意見を吸い上げる行政システムがない。あつても浸透していない。等々多くの意見が出されたものの、結論や方向性を見いだすには至らなかつた。パトナーシップも言葉だけが先走りしている感がない。まずはその定義を明確にしていくことが重要との認識で一致した。このテーマについては幹事会のみならず会員全体が問題意識をもつて議論する必要があると思われた。次回の幹事会は一月十七日に開催予定。

テーマ：REFベトナム研修報告

日 時：平成8年1月24日(水)

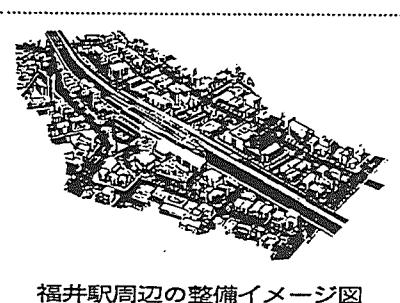
6:30p.m.~

場 所：職員会館

ゲスト：橋本栄治氏(団長)

萬匠東亞男氏

中村毅氏



福井駅周辺の整備イメージ図

▼異様異常なWindows95発売日の光景。REFニュースも近い将来、電子化されパソコン通信で届けることになるかもしれません。しかし、その便利さの裏に意外な落とし穴がないのかどちらかと云ふ心配です。▼駅周辺整備の青写真が新聞発表されました(左図)。一方、新年度大蔵原案では二十兆円超の国債発行額。金より知恵の時代が近そうです。

▼地域の知恵といえば、今野ぶしき。機知にとみ明快な弁舌で、地域計画関係者にいろいろ示唆を与える講演だったと思います。(H)

編集後記



今期四回目の幹事会が三月十九日、REF会議室で開催された。広報担当からREF十六号の編集についての提案があり、編集委員が選出され、今後この編集委員を中心とした編集作業が進められる。原稿の締切りは六月中旬と予想されるが、特別投稿等あれば担当幹事

REF十六期中間報告会が、さる二月二日県民会館にて開催された。この中間報告会は、分科会活動の中間チェック、後半の活動に向けた方向付け、さらに会員相互の親睦を図ることを目的に毎年この時期に開催されている。

この日は、近年まれにみる大雪に見舞われ参加者数が懸念されたが、四十四名が参加、発表七分、質疑三分の時間割で六分科会から前半期間の研究成果が報告された。各発表毎に講評者による講評、全発表の後に杉村正義氏による総評があり、各分科会にとって適切なアドバイスになったと思われる。

その後、恒例の懇親会（三十五名参加）が行われ、児玉副会長のあいさつの後、野田先生の乾杯で開宴し、堂本氏のTVレポートよりの司会進行で終始なごやかな雰囲気で会員相互の親睦を深めた。途中、新入会員の紹介やIREからの奨励賞が本多会長から発表され、交通分科会の受賞となつた。意外にも初の受賞らしいが、本発表に向けて更なる研究活動が期待される。

また、笛木竜三代議士、坂川優県会議員もかけつけまちづくりから県政・国政にいたるまで本口鋭いながら幅広い議論が各テーブルで行われたようだ。発表概要は以下のとおり。

中間報告会
開催される

奨励賞は交通が受賞！

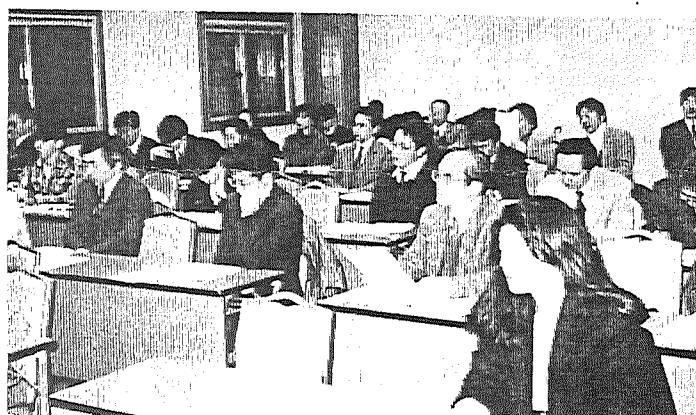
長谷川（県駅周事務所）まで連絡を。その他談話会、理論研、海外研修等担当幹事から今後の予定が報告された。分科会報告では、土地利用からの連絡が途絶えていたことから再生策を迫ることになりそうだ。なお、次回の幹事会は五月二十二日に開催の予定。

幹事会

編集委員を選出



▲カンパ～イ！



▲発表に聞き入るフロア



▲交通の発表（川本氏）

— 各 分 科 会 の 発 表 概 要 —

《地象》 発表：龍崎俊和 講評：酒井俊雄

福井市中心部における防災都市づくりに関する提案 第2福井地震に向けての防災体制を研究。都市機能のいくつかについて地震災害という特殊な状況における機能を考え直し、防災対策を提案する。避難所マップや災害時重要道路網等の提案を行う。

《邑都》 発表：木村晃規 講評：橋本栄治

地域性分析－イメージの場所性と時間性 前期までの地域性分析手法を踏まえ、イメージの場所性と時間性に着目して研究。訪問頻度により地域認知の視点が変化することが認められるが、地域内外でのイメージ差や地域滞在期間によるイメージ差を客観的指標で説明する。

《緑》 発表：宮本幸数 講評：小嶋直人

街路樹計画マニュアル 街路樹の実務担当者に緑の専門家が少ないこと等から誰にでもわかりやすく、地域性を踏まえた街路樹の計画・設計のためのマニュアルづくりに向けて、その構成、内容、体裁等について検討する。

《地盤》 発表：朝日郁代 講評：加藤式男

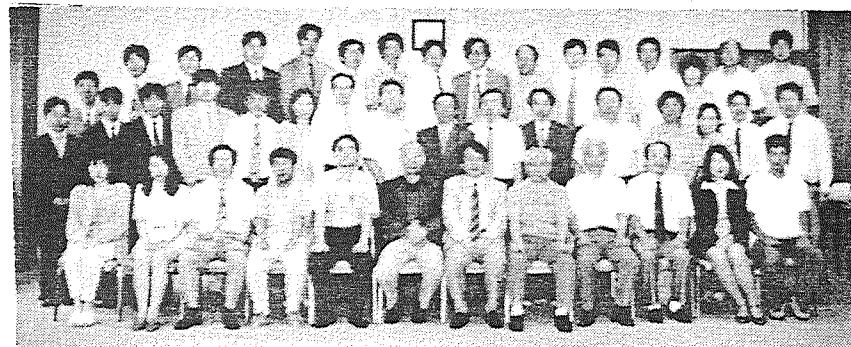
足羽川の河道位置の変遷に関する考察（その2） 前期に引き続き足羽川の旧河道位置を解明。今期は河川周辺地域の住民から過去の土地利用状況等についてアンケート調査を行い、河川改修前の河道位置を推定する。区長、住職等の面接に全力をあげる。

《都市美》 発表：白井秀和 講評：加藤哲男

ル・コルビュジエの「地域主義」について 今期は「風景 paysage」を取り組む。今回は、ル・コルビュジエをめぐって、都市と対置される地方の問題を論議し、曖昧になりがちな都市、美、地方、景観、風景といった言葉の歴史的経緯をさかのぼり、意義を明らかにする。

《交通》 発表：川本義海 講評：北島勝三

「峠」の研究－交流からみたアプローチー 前期に引き続き峠の研究。峠の価値についてブレーンライティングした結果「交流」と「レジャー」が峠整備のコンセプトを探るヒントになることがわかった。今後事例調査を行う。



第17回総会開催

第十七期

役員・予算案議決!

第十七回総会が七月十三日
福井県民会館で開催され第十
七期を迎えるREFの予算
案・役員案等が審議、議決さ
れた。

総会には会員会友あわせて
約五十名が出席した。本多会
長あいさつ、富田顧問あいさ
つ、橋本幹事長による第十六
期活動報告の後、萬匠氏を議
長に選出し議事に移った。

議決事項としては、新任十
名を含む新役員案と県生活學
習館からの補助金十五万円を
新規に含む総額約二百五十万
円の予算案が事務局より提案
されたが、いずれも原案どお
り議決された。

新幹事長や新分科会長から
は今期のREF活動に対しても
の決意表明がされた。

引き続き会場をとなりの部
屋に移し、丹原光隆氏の乾杯
で懇親会が幕を開けた。懇親
会では、新会員が一人ずつあ
いさつを行い、産官学の会員
相互の交流を深め、楽しい歓
談の時が過ぎた。

稻葉氏による閉会の辞のあ
と、一部会員は片町に流出し
たらしく、深夜まで熱い議論
が交わされていたことは言う
までもない。

【第十七期 役員】

会長	本多義明 (福井大学工学部教授)
副会長	児玉忠 (福井県建設技術所総括研究員)
幹事長	橋本栄治 (福井県福井土木事務所専門員)
副幹事長	○稻葉隆夫 (福井県道路建設課係長)
(地域交流)	○加藤式男 (帝国コンサルタント部長代理)
幹事	
(総務)	野村吉範 (福井県河川課主査)
(財務)	○龍崎俊和 (福井市総務部工事検査課技師)
(広報)	長谷川義則 (福井県駅周辺整備事務所技師)
(談話会)	堂本博滋 (総合環境設計事務所代表取締役)
(論文理論研)	○酒井俊雄 (福井県福井土木事務所主査)
(研修会)	三田村佳紀 (福井県都市計画課技師)
(総務支援)	滝波栄治 (福井県監理課技師)
(財務支援)	○菅原桂一郎 (福井県今立土木事務所技師)
(広報支援)	○杉江稔 (福井大学大学院工学研究科)
(談話会支援)	○山田純一 (福井大学大学院工学研究科)
(理論研支援)	○寺内義典 (福井大学大学院工学研究科)
分科会長	
(交通)	○豊田剛 (福井大学大学院工学研究科)
(地盤)	○武井幸久 (福井工業専門学校助教授)
(緑)	○宮本幸数 (宮本設計事務所取締役)
(土地利用)	○乾博次 (中央測量設計)
(都市美)	○川本義海 (福井大学大学院工学研究科)
(地象)	○龍崎俊和 (福井市総務部工事検査課技師)
監査	白井秀和 (福井大学工学部教授)
参与	○加藤哲男 (福井県都市計画課技術主任)
顧問	近藤幸次 (福井県道路建設課課長補佐)
監査	栗田幸雄 (福井県知事)
顧問	今野修平 (大阪産業大学教授)
監査	富田伊太郎 (サンワコン専務取締役)
顧問	富永六郎 (コミュニケーション企画研究所所長)
○は、新任役員	

第16期 決算報告《H. 7. 4. 1~H. 8. 3. 31》

収入の部		支出の部	
費目	決算(A)	費目	決算(B)
目	節	目	節
会 費		会 費	728,649
正 会 員	1,641,000	事 業 費	300,000
学 生 会 員	1,150,000	分科会活動助成金	15,214
会 中 間 報 告 会	45,000	理論研究会助成金	58,633
総 入 金	254,000	談話会助成金	175,602
貯 金	110,000	研修会助成金	179,200
利 付	82,000	機関誌印刷代	457,259
金 の 会 費	151,820	中間報告会費	155,970
会 費 未 納 金	138	会費会費	261,729
	5,000	会議室会費	39,560
	42,250	会議室会費	121,590
計	1,840,208	会議室会費	30,000
繰 越 金	(A) - (B)	会議室会費	76,590
金 子 の 会 費	=1,840,208-1,507,498	会議室会費	15,000
会 費 未 納 金	=332,710	会議室会費	0
計		会議室会費	0

第17期 予算《H. 8. 4. 1~H. 9. 3. 31》

収入の部		支出の部	
費目	予算	費目	予算
目	節	目	節
会 費	1,853,000	事 業 費	1,460,000
正 会 員	1,332,000	分科会活動助成金	350,000
学 生 会 員	33,000	理論研究会助成金	50,000
会 中 間 報 告 会	318,000	談話会助成金	100,000
総 貯 金	75,000	研修会助成金	600,000
利 付	95,000	機関誌印刷代	260,000
金 の 会 費	332,710	地域活動助成金	100,000
会 費 未 納 金	40	会場費用	420,000
計	2,436,000	会報費	140,000
繰 越 金	2,000	会員費	250,000
金 子 の 会 費	150,000	幹事会費	30,000
会 費 未 納 金	98,250	会議室会費	163,000
計	2,436,000	会議室会費	30,000
予 積		会議室会費	100,000
備 費		会議室会費	15,000
立 金		会議室会費	18,000
計		会議室会費	143,000
予 積		会議室会費	200,000
備 費		会議室会費	2,436,000

第十六期研究成果を発表

〔発表者の方々〕



分の時間割で六分科会から研究成果が報告された。

いずれの報告についても活発な質疑応答があり、発表者を当惑させる場面がしばしばあつた。主な質疑としては、

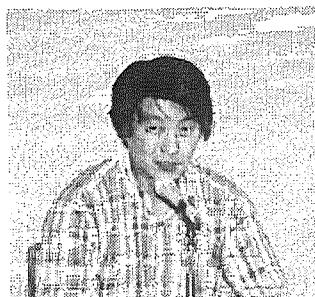
・研究成果を行政機関等に政策提言できないか
・駅周辺の活性化策に展開できないか
・福井という地域性のとらえ方

・研究成果を学会で発表しては

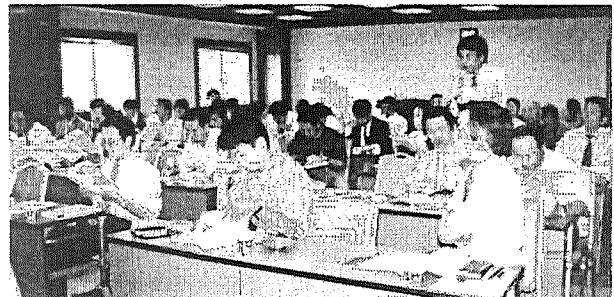
・地域住民との関わり方など、終始 R E F ならではの自由な発想で建設的な議論に結びつくものだつたと思ふ。

高嶋氏による講評では、「各分科会が防災等の共通のテーマで研究をしては」との提言もあつた。

今年もやはり閉会は定期を二十分オーバーしていた。



▲講評する高嶋氏



▲発表に聞き入るフロア

橋本幹事長、決意表明！

「分科会の再生」と



▲決意表明する橋本幹事長

入退会・異動のお知らせ

1. 総数

	H8.2	H8.7	増減
会員	105	112	+ 7
学生会員	19	11	- 8
会友	47	53	+ 6
計	171	176	+ 5

2. 入会

(正会員)

堀江 信之 (県都市計画課)
堀江 典子
斎藤 好子 (県立大学看護短期大学)
木ノ下康一 (県駅周辺整備事務所)

(学生会員)

杉江 稔 (福井大学)
山田 純一 (福井大学)

3. 退会

藤本 聰 (県都市計画課)

4. 異動

(学生会員→正会員)
嶋田 喜昭 (福井大学)
山田 泰之 (福井市)
陳 怡平 (日華学院)
佐々木義明 (サンワコン)
菅原桂一郎 (県立土木事務所)
(学生会員→会友)
本 宏樹 (高島テクノロジーセンター)
河野 芳輝 (前田建設工業)
平岩 直也 (バスコ)
三上 弘城 (大日本コンサルタント)
吉野 敦子 (前田建設工業)

私はとつて三期目の幹事長となる。二年前から、「分科会活動の再生（活性化）」を一つの目標に掲げてきたが、第十六期も一分科会が休会となつてしまつたことに責任を感じている。幸い、第十七期は必ず再開するとの力強い約束を頂いているので期待しております。幹事会でも暖かく見守つてほしいと思っております。

また、十六期の活動方針として掲げたもう一つの「市民とのパートナーシップづくり」については、R E F 活動との具体的な関わ

り方が幹事会の意見交換でも明確な結論に至らないまま一年が過ぎてしまった。しかし今年は、わが R E F が福井県生活学習館（ユ

ー・アイふくい）から「広域学習グループ」としての認定を受けて、今年十月には広域学習グループ間の交流の場を与えられており、R E F の機関誌や海外研修の報告書の展示と併せて公開講座を開催する予定となつてます。R E F の研究成果・活動内容を広く市民に発表できるチャンスであり、

いろいろな活動に参加することに意義があり、積極的に参加することによつて必ずや何物にも代え難い大きな財産になるものと思っており、今後ともあらゆる機会を捉えて、R E F 活動の活性化を図つていきたいと考えてゐるので、ご協力をお願ひしたい。

十二日からの香港研修も精銳の十一名が参加予定で、事前の勉強会も進んでるようです。中国返還前のラストチャンスということでみのり多い研修を期待したいところです。（H）

私にとって三期目の幹事長となる。二年前から、「分科会活動の再生（活性化）」を一つの目標に掲げてきたが、第十六期も一分科会が休会となつてしまつたことに責任を感じている。幸い、第十七期は必ず再開するとの力強い約束を頂いているので期待しております。幹事会でも暖かく見守つてほしいと思っております。

また、十六期の活動方針として掲げたもう一つの「市民とのパートナーシップづくり」については、R E F が福井県生活学習館（ユ

ー・アイふくい）から「広域学習グループ」としての認定を受けて、今年十月には広域学習グループ間の交流の場を与えられており、R E F の機関誌や海外研修の報告書の展示と併せて公開講座を開催する予定となつてます。R E F の研究成果・活動内容を広く市民に発表できるチャンスであり、

いろいろな活動に参加することに意義があり、積極的に参加することによつて必ずや何物にも代え難い大きな財産になるものと思っており、今後ともあらゆる機会を捉えて、R E F 活動の活性化を図つていきたいと考えてゐるので、ご協力をお願ひしたい。